

仙水地区交流施設等整備事業

自治体情報 大分県津久見市

人口 / 20,622人 標準財政規模 / 5,805百万円

担当課 まちづくり推進課
電話番号 直通 0972-82-9542
実施主体 津久見市
関連ホームページ <http://www.tsukumi-irukajima.jp/>

事業期間 平成22年度から

関係施策分類

予算関連データ

総事業費：68,969千円

名称	所管	金額(千円)
過疎地域集落等整備事業費補助金	総務省	17,530
大分県地域活動支援事業補助金	大分県	7,613
過疎債	総務省	6,400
公共施設等整備基金	-	25,300
一般財源	-	12,126

施策のポイント

本施設は、遊漁施設として第3セクターにより釣堀を経営をしていたが、厳しい経営が続く中、行財政改革により施設を単に廃止するだけでなく、地域住民の発案等により施設改修をしたことや、市内での買物消費が増えることで地域経済の活性化に寄与している。

施策の概要

1. 取組に至る背景・目的

本施設を整備した場所は、以前第三セクターで釣堀を経営していたが、年々利用客が減少し、赤字経営が続くという厳しい状況であった。平成16年度から「津久見市緊急行財政改革実行計画」に取り組む中で、この施設を何とかしたいという考えと地域を再度元気づけたいという思いがあった。

そんな中、地元の区長さんや議員さんからイルカを誘致してほしいという提案を受けたことがきっかけで、本事業が始まった。

2. 取組の具体的内容

(株)マリンパレスと連携し、イルカを中心としたふれあい体験型施設「うみたま体験パーク「つくみイルカ島」」(以下「つくみイルカ島」)を整備した。

両者の役割分担として、海上レジャー設備、管理棟、海上部門の運営に必要な施設等は(株)マリンパレスが、その他は津久見市が整備した。

3. 施策の開始前に想定した効果、数値目標など

本施設を整備することにより、施設の入場者数を年間10万人に目標を設定した。また、自然の海を生かしたまま生簀でショーや飼育をしているため、通常の水族館と比較してより身近にダイナミックにイルカを観察することができることや、イルカを見るだけでなく、ふれあい体験を通じて癒し効果を受けられることで、他の施設と差別化し、リピーター率を高めることを狙いとした。

また、本施設に隣接して民間資本により物産館を整備し、地元でとれる農産物や水産物、加工品などの地域の特産品の販売をすることで、津久見市の地域資源の情報発信を行う。

加えて、「つくみイルカ島」を来訪する方を、中心市街地に周遊させ、にぎわいを創出し外貨を獲得することや新たな雇用創出による経済効果の波及を目的とした。

事業開始前に行われた民間の調査会社による試算では、「つくみイルカ島」の年間入場者数が10万人の場合の経済効果は約6億円であった。

4. 現在までの実績・成果

平成23年10月16日現在で年間入場者数の目標10万人を突破した。

5. 導入・実施にあたり工夫した点や苦労した点とその対処法・解決策など

入場者の増加や満足度を向上させるため、両者で協議を重ね施設整備に取り組んだが、急な相手方の要望の変更や追加が多々あった。特に追加要望については、行政は議会の議決を経て予算編成をする以上、全てが相手の要望にそぐうような即時対応できず、協議が進展しないことが多々あった。

6. 今後の課題と展開

「つくみイルカ島」を来訪したお客さんをどれだけ市内部へ周遊させることができるのかが最大の課題である。

仮に「つくみイルカ島」に10万人が訪れたとしても、市内での消費がなければ地域住民が実感できるような経済の活性化には繋がらない。

今まで、本市において類を見ない集客施設ができたことを呼び水とし、商業者だけでなく市民全体がビジネスチャンスと捉え、「イルカ島効果」を無駄にしないよう関係団体で連携し集客等の取組を一層推進していく。